20240607近畿運輸局シンポジウム

パネルディスカッションのまとめ

コーディネーター：　大井　尚司（大分大学経済学部門）

テーマ1

日常輸送の不成立・転換を契機に（過疎地といえど「互助共助」の担い手もいない地域をどうするか）

※行政側の目線＝生活交通　⇔　利害関係の発生（市VS住民）から、「町の将来のため」を地域から（当事者化）

JRですら厳しいのにバス会社・タクシー会社はどうする？

→単一モードでなく「地域の交通全体」をどう考えるか？／チャンスを使う　～　「観光」も「接着剤」

「競合」よりも「共感・連携」して「選んでもらえる」環境に（偶然か、必然か）

→観光地自体の選択にもつながる

◎「関係の質」を上げることの重要性

「連携」（外部の知見を「利用していく」）

振り返りの重要性：　PDCAをどれだけ高速で回していけるか、やることの集中

人手不足に対して手を打てるか：人件費の比率を減らして収益性を上げる

小さな投資を（テクノロジーへの代替）　高付加価値化で得られた利益は待遇改善へ

テーマ2

クロスセクター効果：「投資に対する効果」を違う視点で評価

＊災害対策、他地域との競合、住民にもPR（活動への理解）

地域資源の磨き上げ：　その地域を誇りに思えるか？（評価）

＊外国：海外にも旅に出るが、自国もきちんと案内できる

「人（ひと）」：　足りない状態なら、量より質を求めるしかない

＊付加価値、生活自体を楽しむ観光（移動の視点からも）

連携・協働・共感／共創・連携・協働

＊他のことを考えていたか、という当たり前の気づき　＋　協力して不足を補う

地域の個性を生かす

オリジナリティ・独創性（日本は必ずある）に自信を持つ→　担い手につながってくる

見せたいものを「魅せる」ために磨き上げていく：　受け入れる空間づくり

まとめにかえて

①「思惑が一致」にだれがいつどこで気づくか：その感度とスピード感
　→　いろいろな立場との交流が不可欠か（×井の中の蛙）
②「人材」は担い手だけなのか？：考える人材も不足？
　→　頭脳部分は何とか（地域の枠を超えても）共有化できないか
　「楽しんでもらう」付加価値をつける：異分野協働・共創の可能性
③地域の人・資源・来訪客満足度の「質」を上げる「観光」「移動」
　→　資源だけでも人だけでも交通だけでもダメ、全部の質が上がれば
　「地域」に自信が持てれば人が来る、住む、働く、が回るかも